

(18) キジハタのブランド化に関する調査研究

予算

運営費交付金

概要

大阪府ではキジハタのブランド化を目指しており、そのための調査研究が研究所の役割となっている。平成30年度は健全種苗生産技術開発、価格向上対策、ブランド化支援を行った。健全種苗生産技術開発では形態異常防止対策として、小型水槽での試験結果（孵化後7日目に開鰓させると形態異常率が低下）を量産規模の水槽(100kℓ)で再現する試験を行ったところ、同様の結果が得られ、開鰓率が高い健全な種苗をできる可能性が示唆された。ブランド化支援として、蓄養時の好適な水温・塩分条件を明らかにする試験を行ったところ、低水温の1/2海水区で体重の減少率が小さくなった。また、脂質含有量は10日程度の蓄養では減少はなく、食味への影響はないと考えられた。

担当者

辻村浩隆、鈴木達也